

Kanon

カノン

発行：2026.1.10

2026年 新年挨拶

新年のお慶びを申し上げます。皆様におかれましては、希望とともに新たな一年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昨年は、大阪万博を象徴する大屋根リングが未来への象徴として世界の注目を集め、訪日外国人は4,000万人規模に達し国際交流が大きく前進いたしました。また、生成AIや半導体を軸とした産業革新が加速し、芸術・教育・医療にまで影響が広がるなど、世界全体が新たな局面を迎えた一年でもありました。坂口氏(生理学・医学賞)、北川氏(化学賞)がノーベル賞を受賞し、学術の力が社会に勇気を与えてくれました。

こうした社会の動きと軌を一にするように、神奈川県合唱連盟の活動も、皆様のお力添えにより大きな飛躍の年となりました。2月のフェスティバルでは信長貴富先生をお迎えして32団体が出演、11月のみなとみらい大ホールでのヴィサンには31団体が集い、コロナ禍以前を凌ぐ熱気と歓びに満ちた舞台となりました。深い情熱を注いくださった会員の皆様に、心から御礼申し上げます。さらに、「ジュニア合唱祭」(第44回)と「ユース・コーラルフェスト」(第17回)が同日開催となり、学校部活動の地域移行を受け「合唱やろうぜ in Kanagawa」の第2弾として新たな広がりを見せました。県



内団体が「全日本おかあさんコーラス全国大会」でグランプリを受賞し、「全日本合唱コンクール全国大会」では4団体すべてが金賞・特別賞を受賞されたことも、神奈川の合唱文化の成熟を示す喜ばしい成果でした。

3月には、全日本合唱連盟主催「ユースクワイア2025」が神奈川県立音楽堂にて開催、世界的指揮者カザーニャス氏(スペイン)を迎え、ルネサンスから現代曲まで多様な響きが満席の会場を包みました。音楽堂は倍音が美しく広がる音響効果に優れ、ヨーロッパの教会で“天使の声”と称される響きが鮮やかに体感できる特別な空間です。この恵まれた環境に感謝しつつ、神奈川らしい純度の高いハーモニーをさらに育てて行くことができればと願っております。

一方で、世界では気候変動による災害、終わりの見えない戦禍、7億人を超える飢餓人口など、心の痛む現実も続いています。だからこそ私たちは、悲しみに寄り添い、互いを思いやる心を音楽に託し、“Living together & Peace”の祈りを、合唱という最も人間的な芸術を通して届けてまいりたいと思います。神奈川から世界へ——声が光となり、未来への希望となることを願って。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

神奈川県合唱連盟副理事長 佐藤 美紀子

第80回関東合唱コンクール

第80回関東合唱コンクールは、9月20日(土)に高等学校部門、21日(日)に中学生部門が、新潟県民会館にて開催されました。また、大学職場一般部門は10月5日(日)に埼玉県のレイボックホールにて開催されました。本県からの出場団体の審査結果は以下の通りです。

中学生部門

混声合唱の部

金賞 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校合唱団

同声合唱の部

金賞 清泉女学院中学校音楽部(代表) 関東支部長賞

金賞 横浜市立大綱中学校合唱部(代表)

金賞 横浜市立田奈中学校合唱部

高等学校部門

Aグループ

金賞 清泉女学院高等学校音楽部(代表) 関東支部長賞

金賞 日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ

銀賞 神奈川学園中学・高等学校女声合唱団

銀賞 神奈川県立多摩高等学校合唱部

Bグループ

銅賞 神奈川県立湘南高等学校合唱部

大学職場一般部門

大学ユースの部

金賞 湘南ユースクワイア

金賞 女声合唱団タルトタン

銀賞 Ebi Tune

室内合唱の部

銀賞 CLARA

同声合唱の部

金賞 La Pura Fuente (代表)

混声合唱の部

金賞 合唱団やえ山組

銅賞 Voce Luminosa

第78回全日本合唱コンクール全国大会

第78回全日本合唱コンクール全国大会は、10月25日(土)に高等学校部門、10月26日(日)に中学校部門が富山県オーバード・ホールにて、11月9日(日)に小学生部門が静岡県アクティビティ浜松にて、11月22日(土) 11月23日(日)に大学職場一般部門が佐賀県佐賀市文化会館にて開催されました。今年度も神奈川県からの出場団体は素晴らしい成績を収められました。本県からの出場団体の審査結果は以下の通りです。

高等学校部門Aグループ

金賞 清泉女学院高等学校音楽部
(富山県教育委員会教育長賞)

小学生部門

金賞 川崎市立坂戸小学校合唱団

中学校部門同声合唱の部

金賞 横浜市立大綱中学校合唱部(文部科学大臣賞)

金賞 清泉女学院中学校音楽部(富山市長賞)

大学職場一般部門同声合唱の部

金賞 La Pura Fuente(文部科学大臣賞) 全国シード



4月から歌い始めて約7か月間指導に悩むことも多々ありましたが、毎朝ランドセルを背負ったまま友だちと競って音楽室にやってきて、無邪気な笑顔で歌う子どもたちにどれだけ支えられたかわかりません。全国大会の舞台では、一人一人が「この曲ってこんなに素敵なの!」と自ら表現していて最高の演奏でした。一緒にここまで歌ってくれて本当にありがとう!!

昨年度はサンサーンスの「Ave Maria」、今年度は三善晃の「小鳥の旅」。全日本合唱コンクールのおかげで、一生に残る素晴らしい曲と出会うことができます。合唱団を支えてくださった先生方、保護者の皆様や地域の方々、そして神奈川県合唱連盟の皆様、本当にありがとうございました。

川崎市立坂戸小学校合唱団 森 円佳



この度は文部科学大臣賞という素晴らしい賞を頂き、大変嬉しく思います。今大会の関係者の皆様、日頃私達を応援し、支えてくださる皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。私達は「合唱懸命」というスローガンの基で毎日活動しています。「合唱懸命」には「つながり」「仲間」といった技術面以外の目標も含まれており、合唱部での思い出がたくさん詰まっている言葉です。また、先輩方や先生方と積み上げてきた「合唱懸命」に更に1つ、最高の思い出を積み上げられて、とても幸せです。また、今年度から環境が大きく変わり、

どうすれば良いのか分からない事や、悩みながらも無理矢理進めていった事もありました。これらの行動が今回の結果に繋がったと思うと、色々な思いが込み上げてきます。自分は今年度で引退なので、あとは少しずつ後輩へ移し変えていきたいです。今後の大綱中学校合唱部もぜひよろしくお祈いします。 横浜市立大綱中学校合唱部部長 大金 まどか

清泉ファミリー三団体、金賞・特別賞受賞



今年度は、最大で10声部に分かれる『太陽は地球を飛び出した』（信長貴富）と、楽譜出版間もない『音楽』（土田豊貴）の2曲に取り組みました。全国大会（富山）のオーバード・ホールは、響きの豊かな関東大会（新潟）のホールとは対照的で、音の輪郭が非常に明確に見える、独特な音響のホールで、空間に響きが伸びていかないことに難しさを感じる面もありましたが、『音楽に“愛”をのせ、世界中に届けたい』という今年度の目標を胸に渾身の演奏をすることができました。全国大会で高い評価をいただきましたのも、県大会から高い水準の演奏に触れ、刺激を受け続けられたこと、

皆様からいただいた温かい応援の賜物と、心より感謝申し上げます。 清泉女学院中学校音楽部顧問 佐々尾 優佳



緊迫する国際情勢と地球環境問題、“Living together & peace”の願いを世界中の皆様にお届けしたいと心合わせて練習を重ねました。自由曲は土田豊貴先生委嘱曲“Lauda Sion”、キリスト教の聖体の秘蹟を讃える賛歌です。パンと葡萄酒が分かち合われる象徴的な表現が、戦争の絶えない現実生きる若い世代の心に届いてほしいと願っています。コロナ禍の影響で2学年20人の少人数編成での出場となりましたが、生徒達の平和への熱い想いがオーバード・ホールに満ち、金賞、富山県教育委員会教育長賞を受賞いたしました。生徒達は、来年度ポーランドで開催されるWorld Choral

Championshipでの再演が楽しみになっているようです。今年度も全国大会の晴れの舞台で中高OGの3団体が、清泉サウンドを響かせることができ、恵み深い一年となりました。合唱連盟の皆様、神奈川県の皆様、富山県教育委員会の皆様、温かな応援に心より感謝申し上げます。 清泉女学院高等学校音楽部特別顧問 佐藤 美紀子



最大人数となる42名で文部科学大臣賞という素晴らしい賞を頂きましたこと、大変うれしく思います。有田焼のタイルに包まれたあたたかなホールの響きに包まれ、充実した本番を迎えることができました。また、吉野ヶ里遺跡や嬉野温泉など、佐賀の名所も併せて楽しむことができました。Levente Gyöngyösiに委嘱をした〈Exsultate iusti〉は賛美的なテキストに、厳粛さ、絶望を包含する音楽があえて重ねられた作品です。2曲目には復活節のマリア賛歌Manolo Da Roldに

よる〈Regina Coeli〉を賛美的な気持ちを含めて歌いました。2月1日(日)の鎌倉雪ノ下教会、6月7日(日)の横浜みなとみらいホールにて両曲を再演いたします。合唱連盟の皆様へ感謝申し上げます。 La Pura Fuente一同

第31回ヴィサン《人生百歳》

ジョイント・コーラスフェスティバル

2025年の秋、日本と世界は大きなスポーツの感動に包まれました。10月には福岡ソフトバンクホークスが日本シリーズを制し、また11月には、ロサンゼルス・ドジャースがワールドシリーズ連覇の偉業を成し遂げ、長いシーズンの激闘を締めくくる勝利で世界中に勇気を届けました。明るい話題が相次ぐ中、人々が何かを分かち合う喜びや力強さを改めて感じる季節となりました。そのような活気あふれる時期に、神奈川の横浜でもまた心に響くドラマが生まれました。

2025年11月12日、横浜みなとみらいホール大ホールにて、「第31回ヴィサン《人生百歳》ジョイント・コーラスフェスティバル」が開催されました。県内外から31団体が参加し、うち3団体が初参加として晴れのステージに立ちました。講師には、作曲家・指揮者の相澤直人先生、声楽家・指揮者の大門康彦先生をお迎えし、講評やご指導を通して参加者に新たな学びと未来への力を与えてくださいました。

会場には温かな期待感が満ち、多彩な団体がそれぞれの歌声を響かせ、充実した一日となりました。本フェスティバルでは、長年の継続参加に心からの敬意を表し、参加回数に応じて5回サンク賞、10回プリユネ賞、15回バンブー賞、20回ルパン賞、25回以上にはマイスター賞を贈呈しています。多くの年月にわたり参加して下さった皆さまへの感謝と、歌を続ける尊さと誇りを称える大切な時間となりました。さらに、初参加団体には記念品を、そして会場の大きな励ましの象徴である90歳以上の参加者10名には花束をお贈りし、会場は大きな拍手に包まれました。まさに《人生百歳》の精神がステージいっぱい輝いた瞬間でした。

次回は来年2026年11月12日(木)、横浜みなとみらいホール大ホールにて第32回を開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ヴィサン実行委員長 杉山範雄

参加回数	合唱団名	エフォ ール賞	フェス ティバ ル賞
15	旭混声合唱団		◎
	しほみコール		◎
	JOYシンガーズ	◎	
	高津市民合唱団	◎	
10	グリーンベル女声合唱団		◎
初	女声合唱団はなえみ	◎	
	「新老人の会」コールバンドナ&コールアマカ		◎
25	コール・コサージュ		◎
	コーロ・しるふれい	◎	
	女声合唱団「松(SHO)」	◎	
	福女こら合唱団		◎
	男声合唱団ひびき		◎
	コール・シャンテ&コール・アミーケ		◎
	コーロ・セレーナ		◎
	Palpita	◎	
	Fruits		◎
	Ensemble Calmo	◎	
初	アンサンブル・ホフマング	◎	
	女声合唱団藍の会	◎	
	ヴォーチェ・ムジカレ		◎
	フラウエンコア・ヴォンネ	◎	
	アンサンブルMIMI	◎	
	こーろ・ぱれっと		◎
	ブルーポロニア	◎	
	女声合唱団フレンドリー		◎
	グリーンフラッシュ	◎	
	コールカルミア	◎	
初	鶴沼エコー		◎
	おたまじゃくしの会		◎
	フォレスト・エコー		◎
	ザ・リタイアリーズ&名前のない合唱団		◎

◆参加団体から

今回は昨年に続き2度目の出場でしたので、ホールの雰囲気も味わいながら、団員皆、気持ちよく声を出せました。女声合唱団藍の会

◆スタッフ(受付係・誘導係)から

集合から移動、演奏まで、気持ちよく一日を楽しく過ごしていただけたようにと気を配りました。足のお悪い方もいらっしゃいますが、歌うときは背筋が伸びて、生き生きとした笑顔。こちらも元気をいただきました!





世代をつなぐ「メサイア」、 未来へ響く合唱の力



神奈川県合唱連盟副理事長 杉山 範雄

2025年12月7日(日)、神奈川県立音楽堂にて、第58回クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会が開催されました。本演奏会は1966年の初演以来、半世紀以上にわたり継続してきた伝統ある催しであり、コロナ禍を乗り越えながら毎年クリスマスの時期にその歴史を刻んでまいりました。今回は16歳から91歳までという幅広い年齢層による合唱が実現し、合唱界を支えてきた世代から、次代を担う高校生へと伝統が受け継がれる、理想的な文化継承の公演となりました。指揮を務められた大塚直哉先生は「表現力の向上」をテーマに掲げ、「メサイア未来プロジェクト」では松井亜希先生によるボイストレーニング、また今年からは波多野睦美先生による英語ディクッション・レッスンが実施され、表現の幅が大きく広がりました。未来プロジェクト卒業生を含む大人42名、高校生56名、総勢98名による合唱は、磨きのかかった英国式発音と繊細な表現で、ホール全体を包み込む劇的な響きを生み出しました。ソリスト、オーケストラ、スタッフの支えのもと、アンコールの「ハレルヤ」では会場から盛大な拍手が送られ、未来へつながる「メサイア」として盛会のうちに幕を閉じました。今後も、世代を超えた多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



ヒダキトモコ

指揮——— 大塚 直哉
ソプラノ—— 松井 亜希
メゾソプラノ—— 波多野 睦美
テノール—— 中嶋 克彦
バリトン—— 与那城 敬
管弦楽——— 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

合唱——— 神奈川県合唱連盟
音楽堂「メサイア」未来プロジェクト*

（ *県立湘南高等学校
県立多摩高等学校
法政第二高等学校 ）

♪メサイアに参加して♪

メサイア全曲を歌ったことがなかったので、今回参加させていただきました。本日の演奏会、とても素晴らしいかったです。一流の指揮者、ソリスト、オケ、合唱指導者、そして高校生の方々と素敵な時間を過ごすことができ、感謝いたします。運営の皆様にも御礼申し上げます。(バス 小泉徹)

去年インフルで乗れなかったのが、今年は乗れて嬉しいです！レタス(37曲目のこと)が好きです！(多摩高校2年・河田梨那)

3回目の参加です。達成感とあたたかい拍手への感謝の中、うまく歌えなかった曲への少し残念な思いもありました。終演後の大塚先生のお言葉が印象的でした。うまく演奏できない時は、何より「聴くことが大切」。よく聴き合うこと、演奏会は開催して終わりではないこと、「次に、つながる指針となりました。」(アルト フォーリーみどり)

プロの指導が受けられて楽しいです。高校生のときに、やりがいのある作品に取り組みさせて下さい。(湘南高校2年・森俊輔/松沼春和)

3年目なのですが、やっぱり懐れないところもあります。だけど、この人数で歌えることが嬉しいです！(法政第二高校3年・菅野光希)

普段はない大人の方と合唱する貴重な機会でした。他校や他の年代の方と交流もできて楽しかったです！オケもソリストも近くて、メサイアの素晴らしいさを実感することができました。(湘南高校1年・村田優華)

チェンバロがキレイです！メリスマが難しかったです。(多摩高校2年・栗原波那)

オケと合わせられるのが楽しかったです！高校生と一緒に参加できる機会もなかなかないので嬉しかったです。(多摩高校OB 未来プロジェクト・増田陽)

オケもソリストも素晴らしいです。楽しかったです。勉強になります。来年も出たいです！(湘南高校OB 未来プロジェクト・山本芽依)



「ことばを追い越して」 450名の大合唱!!



ジュニア& ユース・コーラルフェスト実行委員長 佐藤 美紀子

昨年12月21日、清泉女学院講堂にて「かながわジュニア&ユース・コーラルフェスト2025」を開催いたしました。ユース・コーラルフェストは、神奈川県の中高生が交流し、各校の練習方法を学び合う場として17年前にスタートしました。その後、作曲家の先生方を講師としてお招きする「学びの場」へと発展し、節目の10回目となる今回は、44回の歴史を誇る「ジュニア合唱祭」とのコラボレーションイベントとして新たに生まれ変わりました。小中学校のクラブ活動が縮小され、地域展開が進む現状において、ジュニア団体とユース団体が同じ場で学び合い、つながりを持つ機会をつくるのが、今回の大きな目的です。

講師は、大人気作曲家であり、審査や講師のご依頼も多く超多忙な三宅悠太先生。第1部のジュニア7団体、第2部のユース13団体の演奏毎に丁寧にアドバイスをいただきました。「マスク時代から、皆さんの口唇筋が衰えているように思います。唇をしっかり動かし、はっきりと遠くに向かって言葉を飛ばす意識が大切です。」「リズムの取り方が日本人は下に落ちてしまうね。足を上げて腰を浮かすように歩いてみて……それに合わせて歌って、リズムや流れを体感しよう!」「若い世代は、積極的にアルシスを作り出すのは上手ですね。テーシスの部分の読み込みと工夫をしてみましょう。」各団体の個性や長所を的確に捉えつつ、鋭い着眼点

で、今後の練習方法や取り組みのヒントを明快に示してくださいました。とりわけ、音楽のリズムや流れを「身体で体感し、それを表現へつなげる」ことの大切さを繰り返し強調された点が印象的でした。

合同合唱では、第1部のジュニア85名がステージ上に、第2部の中高校団体は客席にて、三宅先生作曲「ことばを追い越して」を大合唱しました。先生の躍動感あふれる指揮のもと、わずか30分という短時間で、音楽が鮮やかに立ち上がり、推進力をもってまとまっていく様子は圧巻でした。ジュニア世代には、興味と集中力を引き出す優しい口調と言葉選びで働きかけ、歌声が目に見えるように変化していく過程がありました。ユース世代は「魂の躍動を感じた時……、君自身がことばになる」という表現に言葉の密度と音楽の説得力が増していく過程を、私自身も大きな喜びとともに味わうことができました。

インフルエンザも流行する年末のご多忙な時期にご出演くださった約450名の生徒の皆様、日頃からご指導くださっている指揮者・顧問の先生方、そして244名の一般聴講者の皆様に、心より感謝申し上げます。次回「ジュニア&ユース・コーラルフェスト2026」は、来年12月20日、清泉女学院にて一日開催いたします。講師には大人気作曲家・横山潤子先生をお招きします。皆様のご参加を心よりお待ちしております!!



合唱を
愛する人

探訪

第8回 桑原 妙子さん

小田原少年少女合唱隊を国内外で活躍する合唱団に育て、県連理事長としても子どもたちへ合唱のすそ野を広げる活動を続けてこられた桑原妙子先生にお話を伺いました。

*ご自身の合唱との出会いは？

戦時中に田園調布から鴨宮の祖母の家に疎開して、防空壕の中で母、叔母、兄、従弟たちとシューマンの「流浪の民」を歌って爆撃が鎮まるのを待っていたのが合唱の初体験です。昔は停電ばかりで何の楽しみもなかったのですが、母が誰も知らないような歌をずっと一緒に歌ってくれていました。たぶんそれがきっかけになっているのかなと思います。

*音楽の道に進まれたのはご家庭の影響でしょうか？

祖母は生け花「小原流」の師範、伯母は裏千家の師範で、お琴のお稽古もしていましたが、その道に進むことに抵抗を覚えて、高校3年の6月から音楽の勉強を始めました。ピアノが壊れてしまったので、高校の先生が定時制の生徒が来るまでの間ピアノを使わせてくださいました。フェリス女学院短期大学の音楽科に合格しましたが、家族には家政科と偽っていたのですけれど何も言われなかったですね。中田喜直先生や團伊玖磨先生など、素晴らしい先生方の下で学び、時には元町でお茶をごちそうになったりもしました。卒業後65年以上経っても10名以上で仲良くしています。専攻科の時に付属の音楽教室の團伊玖磨先生の奥様の助手をするようになったのが初仕事です。

*小田原少年少女合唱隊の創立の経緯を教えてくださいませんか？

1963年に小田原地区音楽連盟と吹奏楽研究会、市の教育委員会が中心になって小田原に児童合唱団を作ろうということになり、指導を依頼されました。学校の先生が声をかけてくださったので100人以上が集まり、教室に入りきれなくてお断りするほどでした。会費も300円。歌いたい気持ちを大切に、子どもたちには発声もわかりやすく、「体には穴が6つあって」ということから始めています。大人も同じですね。指導は30年間ボランティアでした。運営はずっと保護者のボランティアです。

*後援会をはじめ、地元の支援が大きいですね。

小学校や公民館などで練習していましたが、1979年にウィーンの国際合唱コンクールに参加することが新聞に載ったことが



きっかけで、さがみ信用金庫の理事長から支援をいただくようになりました。毎週の練習に会議室を提供していただき、海外演奏旅行の支援もいただいて、本当に感謝しています。

*思い出に残っていることは？

宝塚国際室内合唱コンクール(1985)に高校生メンバーと卒業生で参加して、思い

がけなくグランプリをいただいたこと。初日は無心に歌えたのに、入賞団体の演奏では緊張して足が震えてしまいました。何でも子どもたちが先頭に立ってやること、食事を残してはいけないということを大事にしているのですが、京都の世界合唱シンポジウム(2005)の時は食事がバイキングだったものですから、出てくるものを残らず食べてしまって、慌てて謝りに行きました。カナダで4大陸の合唱団が1週間合宿して練習した世界児童合唱フェスティバル(2001)では、各国の様々な事情を身近に知ることができましたし、「音楽は世界の共通語」という貴重な経験ができました。今でもやり取りがあって大きな財産になっています。卒団生には国連の核戦争反対のメッセンジャーもいて、合唱隊で身に着けた歌やスピーチや着物の着付けもきちんとできることが役に立っているようです。

*合唱連盟では、「地域と結ぶ合唱活動プロジェクト」を立ち上げられましたね。

合唱の好きな子どもたちの育成と学校現場で指導に苦勞されている先生方の助けになればと、指導者の派遣事業を始めました。他県にはない活動でしたので、文部省まで相談に行きました。楽譜が読めなくても、指導するサイドの理解によっていくらかでも変わっていくことを痛感しました。

*合唱を続けている方へのメッセージをお願いします。

命ある限り歌い続けてください。合唱は人と一緒に歌うので一人で歌うのとは大違いです。音楽の前ではみな平等です。

合唱以外にはお料理も大好きとのこと。お正月には毎年20人ほどを招いてたくさんのお料理をふるまってゲームなどをして過ごすそうです。お庭にはエサ台を置いてあり、小鳥たちが50羽もやってくるのか。明るい笑顔がとてもチャーミングで、お話を伺いながら温かい気持ちになりました。

■桑原 妙子■ フェリス女学院大学音楽学部声楽科卒、母校の合唱の非常勤講師を経て、神奈川県合唱連盟顧問。小田原少年少女合唱隊を創立当初から60年間指揮。卒業生のマルベリー・メールクワイア、マルベリー・クワイア、マルベリー・チェンバークワイアを指揮。チェコブラハ国際合唱コンクール最優秀指揮者賞受賞。

コンサートガイド

2026年

1月

10日(土) 19:00~	新春ハーモニーinはしもと 日米合唱フェスティバル 女声合唱団 園-JOY 相模原市民混声合唱団 他	杜のホールはしもと
18日(日) 14:00~	HarmoniaCross Chor Muse et Lys ジョイントコンサート	鶴見区民文化センター サルビアホール 大ホール
25日(日) 14:00~	川崎混声合唱団 第58回定期演奏会	川崎市多摩市民館大ホール

2月

7日(土) 14:30~	日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ 第56回定期演奏会	日本女子大学西生田成瀬記念講堂 大ホール
21日(土) 16:30~	松原混声合唱団 町田市民合唱団 湘南市民コール 合同演奏会	藤沢市民会館 大ホール
23日(月祝) 13:30~	第11回ピナフィオーレ定期演奏会	海老名市文化会館 小ホール

3月

7日(土) 13:30~	横浜混声合唱団 点コンサート2026 「YOKOKONワールドツアー①イギリス編」	横浜みなとみらいホール 小ホール
7日(土) 19:15~	湘南ユースクワイア 第3回演奏会	やまと芸術文化ホール メインホール
8日(日) 14:00~	愛川混声合唱団 第12回定期演奏会	愛川町文化会館 ホール
22日(日) 14:00~	合唱団ふおれすと第2回演奏会	府中の森劇場ウィーンホール
29日(日) 16:00~	ジョイントコンサート—合縁奇縁Vol.2— アンサンブルなうえる Ebi Tune 合唱団インテグラルズ他	海老名市文化会館 大ホール

4月

4日(土) 13:30~	清声会第4回演奏会 サーズデー・チャター 他	横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザホール
11日(土) 16:00~	Diamond Concert Vol.III Diamond Family (湘南フィル他松村努指導の合唱団)	横浜みなとみらいホール 大ホール
19日(日) 13:30~	横浜木曜会 第47回定期演奏会	横浜市戸塚区民センター さくらプラザホール

神奈川県合唱連盟の今後のイベント予定(2026年1月~2026年12月)

●第28回かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト	1月24日(土)・25日(日)	神奈川県立音楽堂
●第48回神奈川県合唱フェスティバル	2月11日(水・祝)	神奈川県立音楽堂
●第49回全日本おかあさんコーラス神奈川県大会~女声合唱の祭典~	4月18日(土)	神奈川県立音楽堂
●第69回神奈川県合唱祭(4日間)	6月13日(土)・14日(日)	神奈川県立音楽堂
	6月27日(土)・28日(日)	神奈川県立音楽堂
●第69回神奈川県合唱コンクール(第81回関東合唱コンクール神奈川県大会)	8月 8日(土)9日(日)	神奈川県立音楽堂
●第32回ヴィサン《人生百歳》ジョイント・コーラスフェスティバル	11月12日(木)	横浜みなとみらいホール
●第59回クリスマス音楽会「メサイア」演奏会(主催:神奈川県立音楽堂)	12月13日(日)	神奈川県立音楽堂
●かながわジュニア&ユース・コーラルフェスト2026(第45回神奈川県ジュニア合唱祭)	12月20日(日)	清泉女学院講堂

編集
後記

各地のコンクールで若い世代の躍進が感じられた年でした。合唱の裾野が広がり、長く歌い続けている合唱団にそれぞれの年代の味わいが増して行けば、豊かな社会になるような気がします。今年も仲よく元気に楽しく歌っていききたいですね。

編集長 青山 道代

神奈川県合唱連盟 情報誌「Kanon カノン」

編集・発行 神奈川県合唱連盟・カノン編集委員会
発行責任者 岩本 達明 編集責任者 青山 道代

神奈川県合唱連盟・事務局

〒231-0021 横浜市中区日本大通15 横浜朝日会館4階

TEL: 045-681-6033 FAX: 045-662-5119

スタッフ常駐: 平日: 月火木金(休祝日を除く) 12:00~16:00

URL <http://kanagawakenren.la.coocan.jp/>

e-mailアドレス kanagawakenren@nifty.com

